

誤用分析にもとづく「ながら」と「면서」の比較

——始点の用法と述語の持続性を中心に——

鄭 惠 先*・坂口昌子**

キーワード: 始点, 相応性, 持続性, 同時進行, 背景性

要 旨

本論は韓国人の作文の誤用例と、韓国語と日本語の対訳本を資料として、韓国語の「면서」^{ミョンス}と日本語の「ながら」の相違を明らかにしたものである。

まず、従来「同時進行」と「逆接」と言われていた日本語の「ながら」の用法に加え、韓国語の「면서」^{ミョンス}には「始点」と「相応性」の用法があることを明らかにした。

次に、両言語が等しく持っている「同時進行」の用法の場合、述語との共起について考察し、出来事の持続性に違いがあることを明らかにした。共起制限のある述語に関しては、従属節の持続性・主節の持続性・従属節の背景性という3点を日韓語の「ながら」と「면서」^{ミョンス}の違いとして明らかにした。

以上の結果を表にすると、以下のとおりである。

	始点	相応・不相应性			同時進行				
		相応的	不相应的		主節		従属節		
			逆接	不相应	持続性	瞬間性	持続性	瞬間性	背景性
ながら	-	-	+	-	+	-	+	-	-
면서 ^{ミョンス}	+	+	+	+	+	+	+	+	+

1. はじめに

韓国語を母語とする日本語学習者の作文では、「～て」「～まま」「～ずに」などの他の形式に比べて、「～ながら」の使用が多く、また、それにもなって誤用がかなり見られる。以下にいくつかの例を挙げる。

- (1) *自殺にトライした瞬間、ひもが切れながら天井からお金が注ぎ出た。【工作】
 (2) *家族といっしょにながら、家族のために何かをしてあげたいです。【嶺作】

* JUNG Hyeseon: 大阪府立大学大学院人間文化研究科博士後期課程。

** SAKAGUCHI Masako: 大阪府立大学大学院人間文化研究科博士後期課程。

(3) *留学しながら今の姉の主人を会いました。

【KY】

これらの誤用の多くは、韓国語に訳した場合は何ら問題にならない。それは、韓国語の「면서」のほうが日本語の「ながら」より使用範囲が広いためであると考えられる。

本論は、日本語の「ながら」と、韓国語の「면서」を比較することにより、以下の2点を明らかにする。1点目は、日本語の「ながら」にはない、韓国語の「면서」だけが持つ独自の用法についてであり、2点目は、ナガラ節・면서節が従属節に立つ場合の述語との共起制限についてである。

従来の研究には、日本語のナガラ節に関するものや、韓国語の従属節末の形式を取り扱ったものはあるものの、日本語の「ながら」形式と韓国語の「면서」形式とを対照した研究はあまり見られない。

これら両言語の「ながら」形式と「면서」形式は意味的にも用法的にも重なりあう部分が多いが、完全に一致するわけではないため、これらを対照し、異なっている部分を明らかにしていくことは、日本語学のみならず、韓国語母語話者に対する日本語教育にも寄与できるものだと考えている。

1-1. 考察方法

本論は、翻訳資料と誤用例という二つのデータにもとづいて考察を行った。

まず、翻訳資料としては、日本の小説『リング』と、その韓国語訳の『링』、韓国の小説『슈리』とその日本語訳『シュリ』の2作品、4冊を対照した。これは、「면서」に対応する日本語の形式と、「ながら」に対応する韓国語の形式とを比較することで、どのような用法が一致し、どのような用法にずれが見られるのかを調査するためである。そのため、翻訳資料の中の「ながら」を「면서」に、「면서」を「ながら」に置き換えられるかどうか、置き換えられない場合は他のどのような形式をとっているかという観点から分析・分類した。このデータを数値化したものが、以下の表1・表2である。

日本語で書かれている2作品の「ながら」の合計は200例、韓国語で書かれている2作品の「면서」の合計は120例であった。その中で、原文と異なる文脈で翻訳されている場合は、「非対応」として区別した。「逆接」の形式には、日本語の「が」「にもかかわらず」「ながらも」と、韓

表1 「ながら」に対応する韓国語の形式

	면서	며	고	逆接	다가	連体	その他	非対応	合計
リング	77	11	0	6	1	0	2	0	97
シュリ	6	74	2	1	2	6	3	9	103
合計	83	85	2	7	3	6	5	9	200

表2 「면서」に対応する日本語の形式

	ながら	連用	て	逆接	その他	非対応	合計
リング	77	13	10	2	2	1	106
シュリ	6	1	0	2	5	0	14
合計	83	14	10	4	7	1	120

国語の「면서도」「지만」がある。また、「その他」には「まま」「に」「終止」「名詞＋で」「てから」と、「는데요」「로」「채」「면서부터」が含まれている。

この資料結果で問題になるのは、「면서」120例に対応する日本語の形式での「ながら」83例を除く36例の形式である。この36例のようなずれから、韓国語母語話者の「ながら」の誤用が生じると推測できる。

誤用例のデータとして、韓国にある日本語学科の大学生の作文を2600文、日本にある日本語学校生の作文200文、公開されているコーパス2800文という3種類の韓国語母語話者の作文資料や談話資料を使用し、その中から「ながら」の誤用例を収集した。誤用の収集例はのべ25例であった。なお、今回対象とした韓国語母語話者の日本語レベルは、すべて中級段階であった。

翻訳資料、誤用例を本文中に引用した場合は、引用文の後ろに略号を記した。略号のないものは作例である。

1-2. 考察内容

本論は、「면서」独自の用法と、共起する述語の制限という2つの観点から見ていく。

まず、「면서」独自の用法に関する考察を行う。日本語の「ながら」が持つ用法とえば、国立国語研究所(1951)が述べるように、「同時進行」と「逆接」を取り上げることができる。しかし、韓国語の「면서」には、「同時進行」と「逆接」以外の用法がある。本論では、このような「ながら」にはない「면서」だけが持つ独自の用法として、「始点」と「相応・不相応性」という2つの用法を提示し、以下の2.で考察する。

次に、同時進行を表す用法内部での、共起する述語の制限に関する考察を行う。陳(1999)は、日本語の「ながら」は瞬間性を持つ動詞とは共起しにくいということを述べている。しかし、瞬間性動詞は、一定の時間的な幅を持つ瞬間と、時間的な幅を持たない瞬間というふうに、2段階に分けることができる。このような述語の時間的幅、言い換えれば、持続性の程度によって「ながら」と「면서」は異なる制限を受けると言えよう。本論では、このような述語の持続性に関わる制限を「従属節の持続性」、「主節の持続性」、「従属節の背景性」という3点から考察し、3.で述べていく。

以上の内容を図示すると図1のようになる。

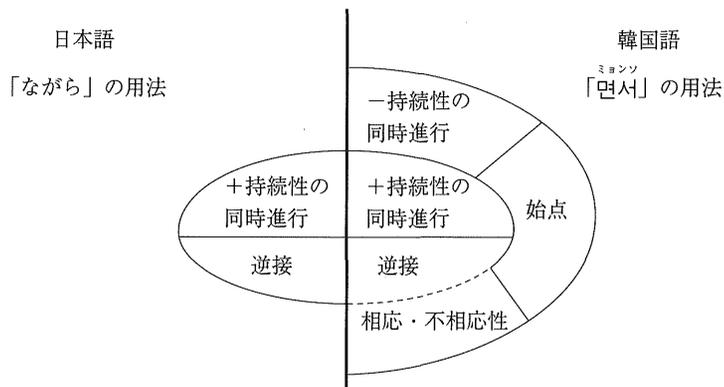


図1 「ながら」と「면서」の用法の比較

左側が日本語の「ながら」を表し、右側が韓国語の「면서」を表す。中央の実線を挟んで、日本語と韓国語が向き合っている。日本語の「ながら」と韓国語の「면서」が重なる部分には、持続性を持つ述語による同時進行と、逆接を表す用法がある。しかし、始点を表す用法と相応・不相応性を表す用法、持続性がない述語による同時進行は、韓国語の「면서」だけが持っており、日本語の「ながら」は周辺の用法をのぞき、典型的にはこれら3種の用法を持っていないことを示している。

2. 「면서」独自の用法について

2-1. 始点を表す「면서」

以下の(4-a)(5-a)は韓国語母語話者の誤用例である。ここでは、以下のような例を始点を表す用法として取り上げる。

(4-a) *自殺にトライした瞬間、ひもが切れながら天井からお金 that 注ぎ出た。 【工作】

(4-b) 자살하려고 하는 순간 끈이 끊어지면서 천정에서 돈이 쏟아져 나왔다.

(5-a) *大 학교를 졸업しながら大学院の試験を受けて、試験に受かりたいです。 【嶺作】

(5-b) 대학을 졸업하면서 대학원 시험을 보고 시험에 합격하고 싶습니다.

「始点」の用法と、野間(1997: 111)で「契機」という用語で述べられている内容とは重なる部分があるが¹、本論では、「契機」が示す範囲をさらに広げ、「始点」という用語を用いることにする。「면서」は「あることをきっかけとして何かが開始された」という順序だけを表すのではな

¹ 野間(1997)が例文として挙げている「契機」の例は、以下のようなものである。

(A-1) 설악산의 어둠이 깔리면서 우리는 방에 들어섰습니다.

(A-2) 雪岳山のとばりがおけると、我々は部屋に入りました。

この論文では「契機」としての「면서」は i) 書きことば的な文体に多い、ii) 主語は不活動体であることが多い、iii) 用言としては無意志動詞が多い、など、かなりその用法を制限している傾向がみられる。

く、多少ではあっても、時間的重なりを必要とすると本論では考えているためである。韓国語の「^{ミョンソ}면서」は、「きっかけ」があって主節の出来事が生起されるのではなく、物事が順々に始まるということを表しているのにすぎないのである。

さらに、野間では「ながら」に訳すことのできる「^{ミョンソ}면서」は「同時」という用法に分類されているが、日本語の「ながら」にも上記のような始点を表す働きをもつものが観察される²。

では、上で挙げた誤用例を詳しく見てみよう。(4-a) (5-a) の日本語の文は非文であるが、(4-b) (5-b) の韓国語の文はまったく問題がない。おそらく、(4-a) (5-a) を作文した韓国語母語話者は(4-b) (5-b) のような韓国語の文を頭の中に浮かべ、それをそのまま日本語に訳したのであろう。

なお、翻訳資料の中には、「ながら」以外の日本語形式と対応している「^{ミョンソ}면서」が36例みられ、その中で、同時進行でない例が22例あった。その22例の中で始点の用法に該当すると判断できる例は19例である。以下にその例を挙げ、参考として(6-b')に韓国語文の直訳文を加えた。

(6-a) しかたがないと諦め、浅川は弁当を買いに走り、三浦哲明に今晚泊まる旨を伝え...

【リング】

(6-b) 할 수 없다고 단념한 아사카와는 도시락을 사러 달려가면서 미우라 데쓰아키에게 오늘 밤 묵고 싶다는 뜻을 전했다. 【링】

(6-b') *しかたがないと諦めた浅川は弁当を買いに走っていきながら三浦哲明に今晚泊まりたいという旨を伝えた。 (前文の直訳, 以下[直訳])

この用法の「^{ミョンソ}면서」は、日本語の「ながら」には対応しにくく、翻訳する場合は、時間的な前後関係を明示する「と」や「て」、連用形などに置き換える必要がある。実際、翻訳資料では、19例の「^{ミョンソ}면서」のうち、14例がテ形もしくは連用形に訳されている。

また、始点の用法と深く関わる語として、「^{ミョンソ}부터」を挙げることができる。これは、「^{ミョンソ}면서」より、主節の始点をさらに明確に示したいときに使われる。日本語にはない形式(直訳すれば「ながらから」)であるため、一般的には、文脈から「時から」「てから」などと翻訳される。

(7-a) 나이가 사십이 되면서부터 기억력이 많이 떨어졌어요.

(7-b) *年が四十になりながら記憶力がかなり落ちました.

(8-a)³ 명현이 중원의 집에 드나들기 시작하면서 욕실은 언제나 말끔한 상태를 유지하고 있었다. 【쉬리】

² たとえば、次の(B-1)の文は「聞きながら」が、同時進行というより、「目を覚ます始点」としての役割を担っていると考えられる。

(B-1) 小鳥の鳴き声を聞きながら目を覚ます.

(B-2) 새 소리를 들면서 잠에서 깨어난다.

³ この例文は「^{ミョンソ}부터」ではなく、「^{ミョンソ}면서」の形式を取っているが、実質的には「^{ミョンソ}부터」の意味合いを強く持っており、これに対応する日本語訳も「てから」が使われている。

(8-a') *^{ミョンヨン ジュンヨン}明顕が重遠の家に出入りし始めながら浴室はいつもきれいな状態を維持していた。

[直訳]

(8-b) ^{ミョンヨン}明顕が来るようになってから浴室はいつもきれいに整頓されるようになった。

【シュリ】

日本語の「てから」の場合は、従属節と主節の単純な接続であり、時間的な順序だけを示すが、韓国語の「^{ミョンソプ ト}면서부터」は時間的な前後関係を示すだけでなく、従属節が主節と時間的に重なりを持つという意識が強い。その点で、「^{ミョンソ}면서」の性質を色濃く持っているといえる⁴。

また、韓国語では、「^{ミョンソ}면서」に意志性を持たない無意志動詞が前接し、始点を表す用法として使われる場合がある。しかし、日本語の場合、無意志動詞は「ながら」と結合しにくい。したがって、以下の(9-a)(10-a)の韓国語文に対して(9-a')(10-a')のような直訳文は非文になり、(9-b)(10-b)のような連用形で訳されることになる。

(9-a) 그리고 길은 갑자기 2차선이 되면서 돌변하여 노면 질도 좋아졌다. 【링】

(9-a') *そして道はいきなり二車線になりながら、急変して路面の質もよくなった。

[直訳]

(9-b) そして突然、道は二車線になり、うって代わって路面の質もよくなり...【リング】

(10-a) 총성이 잦아들면서 시신들의 수가 점점 더 늘어갔다. 【쉬리】

(10-a') *銃声が静まりながら死者の数がどんどん増えていった。【直訳】

(10-b) 銃がうなり、次々と兵が倒れていく。【シュリ】

2-2. 相応・不相応性を表す「^{ミョンソ}면서」

以下の(11-a)は韓国語母語話者の誤用例である。

(11-a) *家族といっしょにながら、家族のために何かをしてあげたいです。【嶺作】

(11-b) 가족과 함께 있으면서 가족을 위해 뭔가를 해 주고 싶습니다。

日本語のナガラ節は、国研(1951)などからも明らかなように、状態性動詞や形容詞、名詞⁵などに後接する場合は、必ず逆接として用いられ、同時進行としての解釈は不可能である。しかし、「^{ミョンソ}면서」は上記の品詞に後接する場合も、逆接の意味だけを表すわけではなく、(11-b)のように同時性を表すことも可能である。

また、日本語の(12-a)(13-a)は非文であるのに対し、韓国語の(12-b)(13-b)の文は成立

⁴ これに関連して、今回の資料調査の中から、日本語の「てまで」に当たる形式として韓国語では「^{ミョンソク 켜지}면서까지」(ながらまで)と訳されている例がいくつか見られた。

(C-1) 親に嘘をついてまで仲間と泊まりに出かけるような子ではない。

【リング】

(C-2) 부모에게 거짓말을 하면서까지 친구들과 싸돌아다니는 아이가 아니다。

【링】

⁵ 日本語で「名詞+ながら」の形式はかなり慣用句化されており、「こともながら」のように状態を表す名詞など、非常に限られた名詞にしか後接しない。

する。

(12-a) *もうすこしここにいながら様子を見ます。

(12-b) 좀 더 여기에 있으면서 동정을 살펴 보겠습니다.

(13-a) *お前はできながらそういうことを言うのか？

(13-b) 너는 할 수 있으면서 그런 말 하는 거니？

このような相違は、「^{ミョンソ}면서」がもつ「相応・不相応性」の用法に起因すると考えられる。「相応・不相応性」とは、従属節で期待されていた想定が、主節の内容に即しているか、反しているかということを示す。陳(1999)は、日本語の「ながら」について「逆接」という意味で「不相応」という用語を用いている。しかし、本論では「逆接」を含む上位概念として、「不相応性」という概念を設けた。すなわち、韓国語の「^{ミョンソ}면서」には「相応性」と「不相応性」の両方を示す働きがあるのに対し、日本語の「ながら」には「不相応性」の中でも「逆接」を示す働きしか存在しないと考えるのである。

翻訳資料の中で、不相応性を表すと考えられる「^{ミョンソ}면서」の例は3例みられた。

以下の(14)(15)は、逆接を表す用法と意味的に重なるため、(14-a')(15-a')のように直訳して「ながら」を用いてもまったく違和感がない⁶。

(14-a) 현지에 있으면서 모를리 없는 일이다。

【^{リング}령】

(14-a') 現地にながら知らないはずはない。

[直訳]

(14-b) 現地にて知らないはずはないだろう。

【リング】

(15-a) 일년 넘게 만나오면서 상대를 전혀 감지하지 못했다는 건 납득이 안 되는데。

【^{シュリ}쉬리】

(15-a') 1年以上つき合いながら相手を全然感知できなかったというのは納得がいけないけどね。

[直訳]

(15-b) 1年以上そういう関係が続いていたにもかかわらず、相手の正体に気づかなかったというのは納得がいきません。

【シュリ】

また、この「相応・不相応性」という特徴は、動詞だけではなく、形容詞と名詞に後接するときにも同様に表される。

(16-a) この車は狭いながら乗り心地がいい。

(16-b) 이 차는 좁으면서 승차감이 좋다.

(17-a) *この車は広いながら乗り心地がいい。

(17-b) 이 차는 넓으면서 승차감이 좋다.

(16)の例では「ながら」と「^{ミョンソ}면서」が両方とも逆接として使われている。しかし、(17)のよ

⁶ 逆接を表す用法とは、必ずしも状態性述語に限るのではなく、動作性述語の逆接をも含む。

うに従属節と主節がお互いに逆接としてとらえられない意味になると、(17-a)の日本語文は非文になる。これに対し、(17-b)の「면서」は従属節と主節が「相応的」であることを表し、「その上」「しかも」という付加の意味としてとらえることが可能である。

また、(18-a)(19-a)のように、まったく反対の意味を持つ語彙を「면서」でつなげ、「～のようで、——のようだ」「～たり、——たりする」という意味を持たせることもできる。

(18-a) 한국어는 쉬우면서 어렵습니다. 【アンニョン】

(18-b) *韓国語は易しいながら難しいです. 【アンニョン】

(19-a) 일본은 가까우면서 먼 나라입니다.

(19-b) *日本は近いながら遠い国です.

ここでの「면서」は、従属節と主節が「不相応的」であることを表しているが、「ながら」の逆接の用法には収まらないので、(18-b)(19-b)のような日本語文は成立不可能である。

翻訳資料の中のもう1例は以下の(20-a)で、これは、「ない+ながら」に当たる「안~면서」の例である。日本語の場合、「ない+ながら」の形式は「わからないながら」「できないながら」のように、かなり慣用的な表現でしか使うことができない。一方、「면서」はほとんどすべての動詞の否定形に後接することが可能であり、その使用範囲が非常に広い。

(20-a) 밥도 안 주면서 희의를 시켜? 【슈리】

(20-a') *ご飯もくれないながら会議をやらせるのか. 【直訳】

(20-b) 会議ではご飯も食わせなかったのか. 【シュリ】

3. 共起する述語の制限について

3-1. 従属節の出来事の持続性

翻訳資料で「면서」の日本語訳が「ながら」ではない36例のうち、同時進行と考えられる例は14例見られた。この内、「ながら」に置き換えても差し支えない例は9例で、残りの5例は「ながら」への置き換えが困難であった⁷。これらは持続性という概念に関わっており、その中で4例が従属節の出来事の持続性と関連している。

瞬間性動詞は、幅を持った運動としてとらえられる動詞と、瞬間的に運動が完了する動詞との2類に分けることができる。和田(1998)は、この2類を、「落ちる」のように継続とパーフェクトを両方表す動詞類と、「知る」のようにパーフェクトだけを表す動詞類とに区別している。

(21-a) 彼は絶壁から落ちながら悲鳴を上げた.

(21-b) 그는 절벽에서 떨어지면서 비명을 질렀다.

⁷ ちなみに、「ながら」で対応できない同時進行「면서」5例の日本語形式はテ形3例、「名詞+で」1例、「が」1例であった。

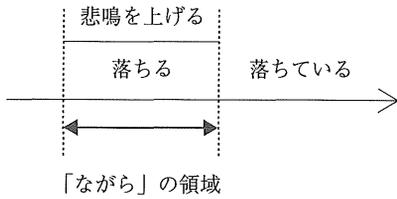


図2 同時進行を表す「ながら」

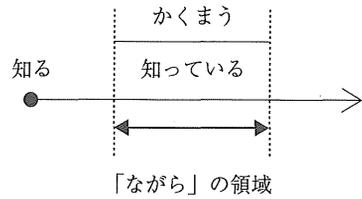


図3 逆接を表す「ながら」

(22-a) 彼が犯人だと知りながらかくまった。

(22-b) 그가 범인인 줄 알면서 숨겨주었다.

ナガラ節と関連させて考えると、「落ちる」は、「落ちている」という動作パーフェクト以外に、(21-a)の「落ちながら悲鳴を上げる」のように継続を表すことができる。その反面、「知る」は「知っている」という形式で状態パーフェクトを表すことはできるが、(22-a)の「知りながら」という形式は逆接の意味でしか用いられず、継続は表すことができない。

その内容を図示すると図2・図3のようになる。

日本語におけるこのような動詞の局面の差は、韓国語の動詞とは必ずしも一致せず、これが、(23)のような違いを生じさせられると思われる。

(23-a) 파트너가 죽으면서 내 손에 축구경기 티켓을 쥐어주더군요. 【^{シュリ}취리】

(23-a') *파트너가死^シながら, わたしの手にサッカー競技のチケットを握らせたんです. 【直訳】

(23-b) わたしの相棒が死の間際, サッカーのチケットをわたしの手に握らせたんです. 【シュリ】

(21-a)の「落ちながら」が可能で、(23-a')の「死ながら」が不可能なのは、日本語の中で「落ちる」は継続の局面を持つ動詞であるが、「死ぬ」は図3の「知る」と同様に状態パーフェクトしか持たない動詞だからである。これに対して、韓国語の場合は(21-b)(23-a)の両方とも可能であり、「죽다(死ぬ)」は図2の「^{ジョツク}떨어지다(落ちる)」と同様に認識され、同時進行を表すことになるのである。

3-2. 主節の出来事の持続性

次の(24-a)は不適切な文であるが、韓国語の(24-b)にすると自然な文になる。

(24-a) *アルバイトをしながら今の主人に出会った。

(24-b) 아르바이트를 하면서 지금의 남편을 만났다.

これは、3-1.ですすでに述べた従属節内の問題ではなく、主節の「出会う」という動詞が瞬間過程の局面しか表せないからだと考えられる。そのため、(25)のように主節の出来事が持続性を持つ場合は問題なく使われる。

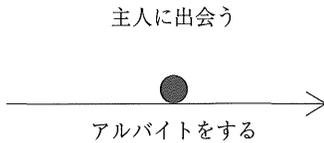


図4 瞬間過程の局面

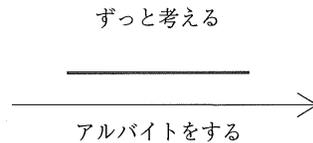


図5 持続過程の局面

(25-a) 今日、アルバイトをしながらずっと恋人のことを考えていた。

(25-b) 오늘 아르바이트를 하면서 쭉 애인을 생각했다.

このように、主節の出来事が持続過程の局面を表すことになると文が安定し、また、(26-a)のように反復性のある要素を加えると、文が成立する。

(26-a) アルバイトをしながら多くの人に出会った。

(26-b) 아르바이트를 하면서 많은 사람을 만났다.

以上のことをふまえ、本論では、主節の出来事を描く局面として「瞬間過程の局面」と「持続過程の局面」という二つの局面を設定した。この両局面の差を図示すると、図4と図5のようになる。

図4の「出会う」という行動は、その後、「出会っている」という状態を持続しない。しかし、図5の場合、「考える」という動作に一定の期間を表す「ずっと」という要素を加えることによって、持続過程の局面を表すことが可能になる。このように、「ながら」は、主節の出来事が持続性を持つ図5のような文のみで成り立つのに対し、「^{ミョンソ}면서」は図4と図5の両方が可能である。これは「^{ミョンソ}면서」が主節の持続性の如何に関わらず用いることができるためである。

3-3. 従属節の出来事背景性

ここでは、従属節が継続の局面を持っていても、「ながら」と共起しにくいものについて考察していく。以下に、関連する韓国語母語話者の誤用例を挙げる。

(27-a) *今まで生きながらまちがえたことがあれば、反省もしたくて... 【嶺作】

(27-b) 지금까지 살면서 잘못된 것이 있으면 반성도 하고 싶고...

(28-a)⁸*赤ちゃん1人が地球に来て、地球で育ちながら戦う技術とかを身につけて...

【KY】

(28-b) 한 아기가 지구에 와서, 지구에서 자라면서 싸우는 기술같은 것을 익히고...

(27-a) と (28-a) で使われている「生きる」と「育つ」は、両方とも同じく継続の局面を持つ動詞であるのに、なぜ非文となってしまうのであろうか。

⁸ 「ながら」に直接に関連していない誤用の部分は、掲載の際省いている。

これらの問題は、従来、中川（1988）などで考察されているとおり、「意志性」という言葉で説明されることが多い。2-1.でも少し触れたように、「ながら」の場合、主節も従属節も意志性を持つ動詞しか同時性を表すことができないとされており⁹、無意志性の動詞がナガラ節の前に来ると、逆接の意味でしか解釈することができないとされてきたのである。

しかし、次のような例を見てみよう。(29-a')例は、従属節が「解剖する」という意志的な動作であるにもかかわらず非文となってしまう。そのため、ここでは、その原因を「従属節の出来事の背景性」という観点から考察する。

(29-a) 부검하면서 이런 숨씨는 처음이에요. 【^{シユリ}쉬리】

(29-a') *解剖しながらこんな腕前は初めてです. [直訳]

(29-b) 長いこと解剖医をやっていますが、これほどの腕前は見たことがありません.

【シユリ】

(30-a) 부검하면서 음악을 듣는 것이 그의 오래된 습관이였다.

(30-b) 解剖しながら音楽を聴くことが、彼の昔からの習慣だった.

本論でいう「背景性」とは、従属節の出来事が主節の出来事に対して背景のような働きをしているということである。「ながら」に前接する動詞の時間的幅が広く、具体的な動作の描写が難しい場合、同時進行の用法とは考えにくくなり、従属節と主節のつながりが不自然になってしまうことを指す。よって、「生きる」や「育つ」のように、出来事の始まりと終わりが鮮明でない動詞は背景性が強く、ナガラ節を形成することが難しくなると考える。(29)と(30)の「解剖する」を文全体からみると、表している時間の幅には差があることがわかる。過程の長さのみならず、(30)に比べて(29)のほうが従属節と主節の時間的な幅に差があるのである。このように従属節の述語が表す過程の幅と主節の述語が表す過程の幅に差が大きければ大きいほど、従属節を「ながら」でつなげることは難しくなる。(29-a)の「^{ブゴマダ}부검하다(解剖する)」という従属節の述語は解剖医として行動するさまざまな関連動作を含んでおり、主節の背景として働いている。したがって、その直訳文である(29-a')は非文となってしまう、代わりに(29-b)のような「ながら」を用いない表現が必要になる。「^{ミョソソ}면서」の場合は、このような制約は少なく、(29-a)(30-a)ともに自然な文として使われるのである。

4. 結 論

以上、「ながら」と「^{ミョソソ}면서」の相違点について考察を行った。まず、図6は今回考察した資料の

⁹ 主節の動作を従属節が詳しく表す場合は意志性を持たない動詞も「ながら」と共起し、同時性を表すことができる。

(D) めそめそ泣きながらこちらへ歩いてくる。

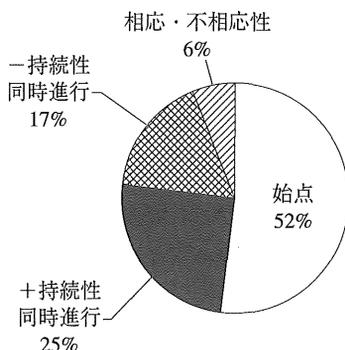


図6 翻訳資料での「ながら」に対応しない「면서」の用法

中で、翻訳資料だけを考察内容にしたがってまとめたものである。「면서」の日本語訳の中から「ながら」と対応していない36例を分析した結果は、以下のようなグラフにまとめられる。

持続性を持つ述語による同時進行の例が25%で、これらは「ながら」と入れ換えてもまったく差し支えない。その他に「면서」だけが持つ用法として、始点を表す例が52%、相応・不相応性を表す例が6%¹⁰、持続性を持たない述語による同時進行の例が17%であった。

本論での考察により、以下の5点が明らかになった。

まず、「면서」独自の用法として次の2点を挙げる。

- 1) 「면서」は、「ながら」の持つ同時進行と逆接の用法の他に、始点を表す用法を持つ。
- 2) 「면서」は、「ながら」の逆接の用法を含む一段広いカテゴリとして相応・不相応性を表す用法を持つ。

次に、共起する述語の制限という観点から次の3点を挙げる。

- 3) 「ながら」と「면서」では従属節に付く動詞の持続性に差があり、「면서」のほうで持続性が認められる動詞が多い。
- 4) 「ながら」の場合、主節の出来事が持続性を持たなければならないが、「면서」にはこのような制約はない。
- 5) 従属節の述語が表す時間的な幅が広く、主節の述語が表す時間的な幅との差が大きい場合、「ながら」は非文になりやすい。一方、「면서」は従属節が主節に対して背景のような働きを持ち、正文になる。

結果をまとめると表3のようになる。

以上のように、日本語の「ながら」と韓国語の「면서」形式の対照を行ってきたが、今後、

¹⁰ この中には「ながら」が持っている逆接の用法も含まれており、これらは「ながら」との置き換えが可能である。

表3 「ながら」と「면서」の比較

	始点	相応・不相応性			同時進行				
		相応的	不相応的		主節		従属節		
			逆接	不相応	持続性	瞬間性	持続性	瞬間性	背景性
ながら	-	-	+	-	+	-	+	-	-
면서	+	+	+	+	+	+	+	+	+

「면서」自体の制約について考察を深める必要がある。中でも韓国語の動詞分類と「면서」のかわりについてのさらなる論究が必要であると思われる。

また、「て」と「고」「서」などの形式、「まま」と「채」「다가」など「ながら」「면서」にかかわる他の形式などについても今後対照していきたいと考えている。

付 記

学習者の作文の収集にご協力下さいました、嶺南大学校とエールネットワーク専門学校にお礼を申し上げます。

参 考 文 献

- 大江孝男 (1972) 「用言語尾の意味と体系」『現代言語学』, 三省堂。
- 生越直樹 (1987) 「日本語の接続助詞「て」と朝鮮語の連結語尾{a}{ko}」『日本語教育』62, 日本語教育学会。
- 国立国語研究所 (1985) 『現代日本語動詞の aspek と テンス』, 秀英出版。
- (1951) 『現代語の助詞・助動詞——用法と実例』, 秀英出版。
- 陳 芬 慧 (1999) 「接続助詞「～ながら」について——「～ても」と比較して」『日本語教育論集・世界の日本語教育』9, 国際交流基金日本語国際センター。
- 中川良雄 (1988) 「「ながら」の意味と機能——動作の「並行」を表す場合」『京都外国語大学研究論叢』31。
- 野間秀樹 (1997) 「朝鮮語の文の構造について」『日本語と外国語との対照研究 IV 日本語と朝鮮語』国立国語研究所, くろしお出版。
- 浜之上幸 (1991) 「現代朝鮮語動詞の aspek 的 クラス」『朝鮮学報』138, 朝鮮学会(日本)。
- 柴 公 也 (1994) 「「(으)면서」の意味と用法について」『熊本学園大学 文学・言語学論集』1-1。
- (1995) 「「～면서」と「ながら」の対照研究——[時間]の「～면서」と[持続]の「～ながら」をめぐって」『熊本学園大学 文学・言語学論集』2-1。
- 油谷幸利 (1978) 「現代日本語の動詞分類——aspect 를 中心으로」『朝鮮学報』87, 朝鮮学会(韓国)。
- 和田礼子 (1998) 「逆接か同時進行かを決定するナガラ節の aspek について」『日本語教育』97, 日本語教育学会。
- 김진수 (1987) 「<고>, <-(으)며>, <-(으)면서> 의 통사·의미의 상관성」『國語學』16, 國語學會(韓国)。
- 남기심·고영근 (1985) 『표준 국어문법론』, 탑출판사。
- 남기심 (1994) 『국어연결어미의 쓰임』, 서광학술자료사。
- 정현숙 (1999) 「특정한 동사류와 <고>, <-(으)서> 와의 통합에 대하여」『언어학』25, 한국언어학회。

資 料

- 鈴木光司著 (1998) 『リング』 角川ホラー文庫 【リング】
- 鈴木光司著 윤덕주訳 (1998) 『링』 CNC MEDIA 【링】
- 정석화著 (1999) 『쉬리』 한국출판협동조합 【쉬리】
- 정석화著 김중명訳 (1998) 『슈юри』 文春文庫 【슈юри】
- 姜奉植 (1996) 『日本人のためのアンニョンハセヨ アンニョンハシムニカ 韓国語入門』, 時事日本語社
【アンニョン】
- 「KY コーパス version1.1」 鎌田修・山内博之(他)科研「第二言語としての日本語の習得に関する総合研究」グループ 【KY】
- 韓国 嶺南大学校 師範大学 大学生作文 1997年度 2年生 収集者: 坂口昌子 【嶺作】
- エールネットワーク専門学校 日本語教育科 生徒作文 1999年度 2年目クラス 収集者: 坂口昌子
【エ作】